



医療データ分析コンサルタントの 病院経営戦略コラム

Vol.17

データ分析の切り口から2022年度
診療報酬改定とその先を読む

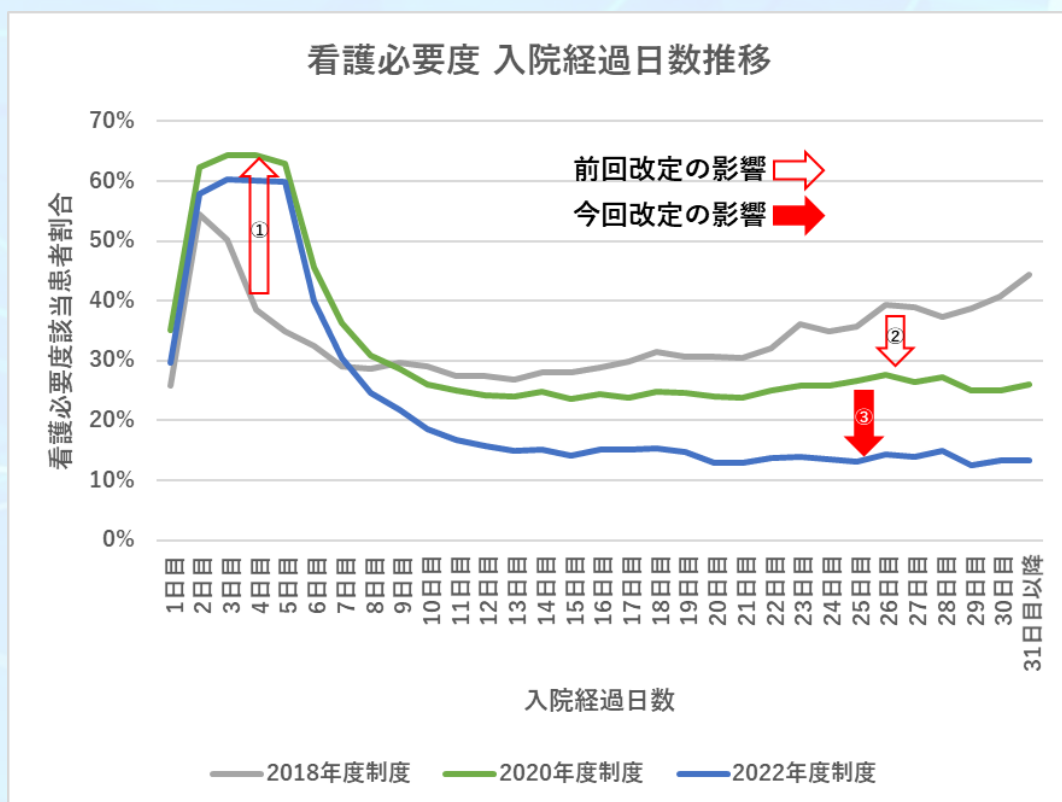
■コロナ禍でも一貫して求められる急性期病棟の高回転化

コロナ禍で、地域から求められる役割の変化や、経営に大きな影響が生じた病院が多かった。そのような環境下での診療報酬改定は、機能の持続性を考慮したものになると期待されたものの、ふたを開けてみれば、いつもどおりの厳しい改定となった印象である。

急性期一般入院料の看護必要度の除外が何よりも大きな影響となった。病院によって影響度合いは異なるものの、内科系に厳しい印象である。また、点滴3本→薬剤3種に変更は、患者によっては新たに該当するケースもあり、単純な引き下げとは言えないものの、高齢患者は該当しなくなるケースが目立つ。

看護必要度の入院経過日数推移について、改定シミュレーションの結果を示す（グラフ1）。

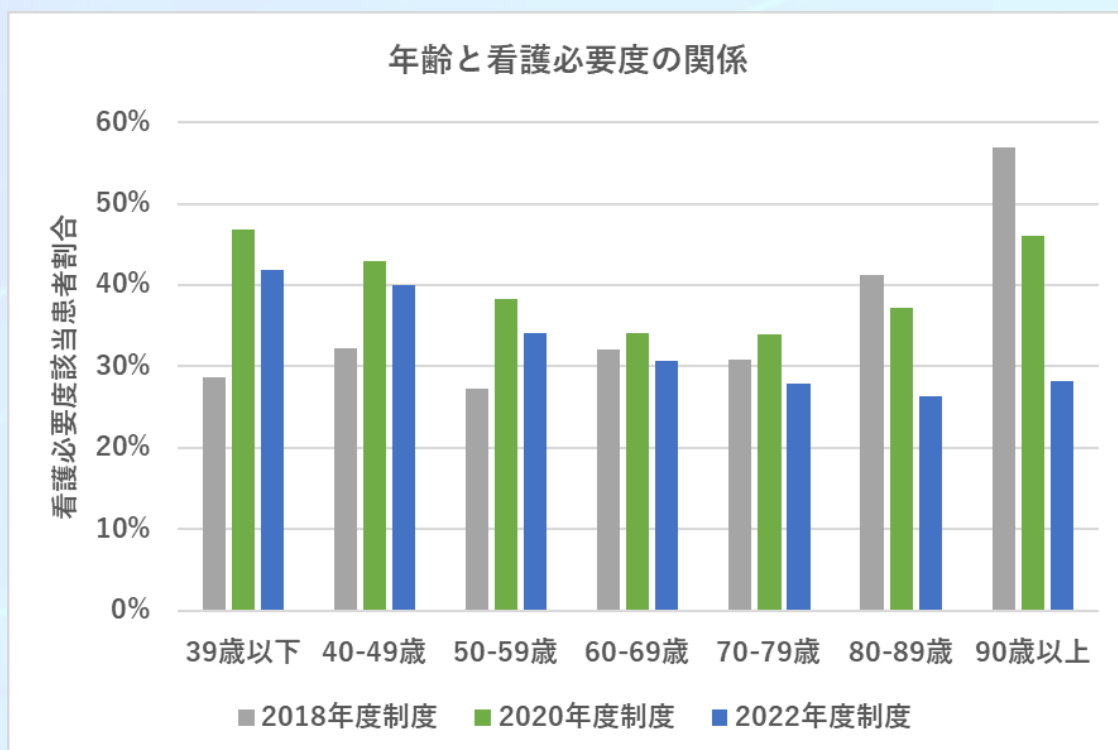
◆グラフ1 看護必要度IIの改定の影響シミュレーション（入院経過日数推移）



18年度制度、20年度制度、22年度制度の3パターンを比較すると、入院初期（1日目から5日目）は18年度制度に比べ20年度制度で大幅にアップした（グラフ1の矢印①）。これは救急医療管理加算の評価（A項目2点・5日間）が加わったためだ。またC項目の日数延長や術式・検査の追加も影響している。一方、入院10日目以降は低下した（グラフ1の矢印②）。これは認知症患者等においてA項目1点かつB項目3点で評価していた条件が除外された影響である。そして今回の改定は、入院7日目以降が大きく下がる（グラフ1の矢印③）。心電図モニター除外と薬剤3種への変更の影響である。

また、年齢別の改定シミュレーション結果を示す（グラフ2）。今回の改定は80歳以上の看護必要度が大きく低下する。

◆グラフ2 看護必要度IIの改定の影響シミュレーション（年代別）



弊社分析資料

つまり、高齢で在院日数の長い患者を狙い撃ちしている。

急性期病棟での治療が落ち着き、後方病床への転棟・転院が必要な高齢患者は、現状ある程度看護必要度を満たしているだろう。しかし、改定で満たさなくなる割合が高くなる。病院全体で基準をクリアできないならば、早期転棟・転院を強化しなければならない。

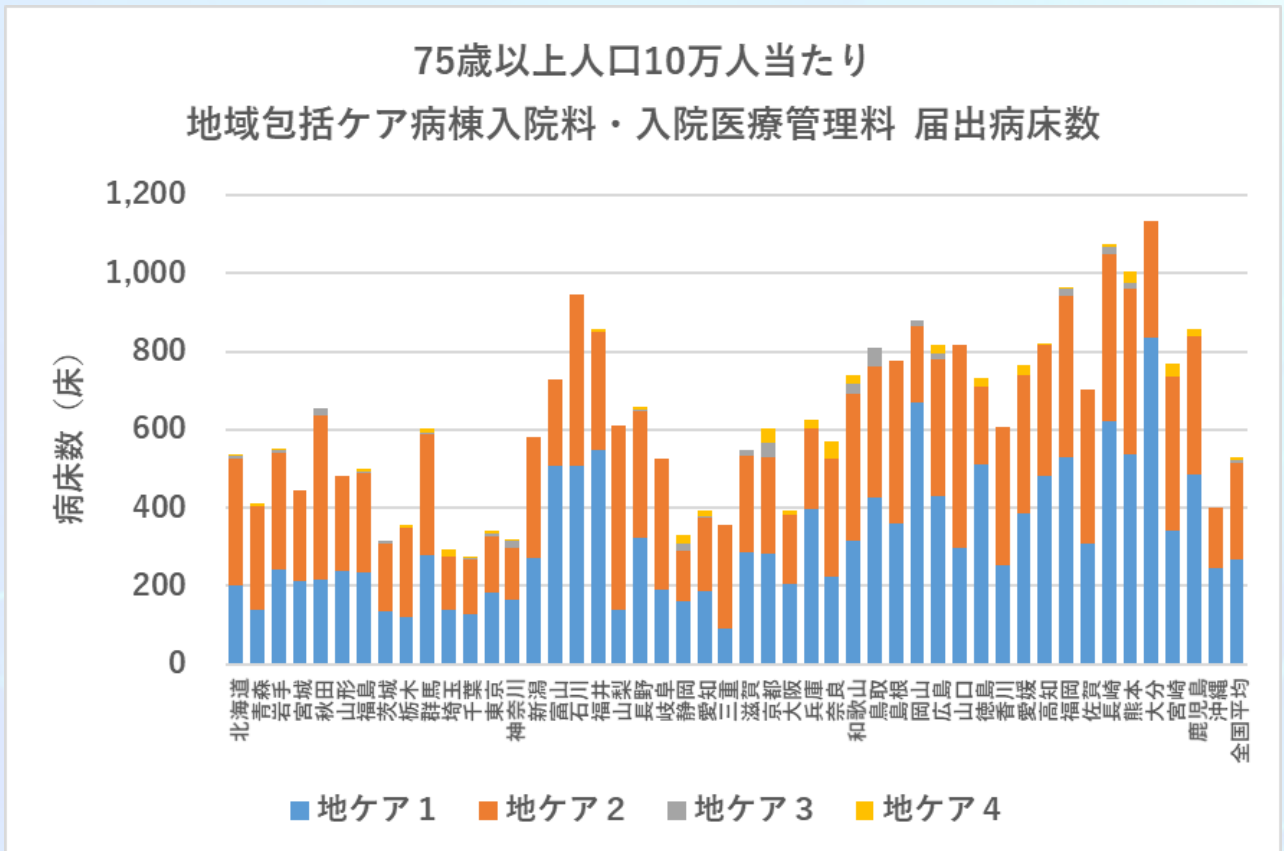
■地域包括ケア病棟や医師事務作業補助者の改定内容から見えてくる方針転換

2014年度の地域包括ケア病棟入院料創設当初は、高い入院料で「サブアキュート患者のための病床整備」を誘導した。その結果、地域包括ケア病床の整備状況には大きな地域差が生じているものの（グラフ3）、北陸や西日本のようにかなり病床が充実した地域も増えている。地域によっては、サブアキュートの受け皿整備の目的をある程度達成したというところもあるだろう。

そして、前回、今回の改定では、院内転棟に厳しい制約を課し、一方で自宅や他院、介護施設から患者を入れることの評価を引き上げた。

この改定は、地ケアが足りない地域ではまだ増やしても良い（ただし地域の生態系を崩さないように大病院が持つのはNG）が、「使い方」が地域（厚労省）の意にそぐわないと点数は下がるというメッセージであると理解している。

◆グラフ3 75歳以上人口当たりの地域包括ケア病床数の地域差



各地方厚生局 届出受理医療機関名簿（東北・関東信越厚生局：2021年12月1日、その他厚生局：2022年1月1日現在）、総務省統計局人口推計（2020年10月1日現在）を基に作成

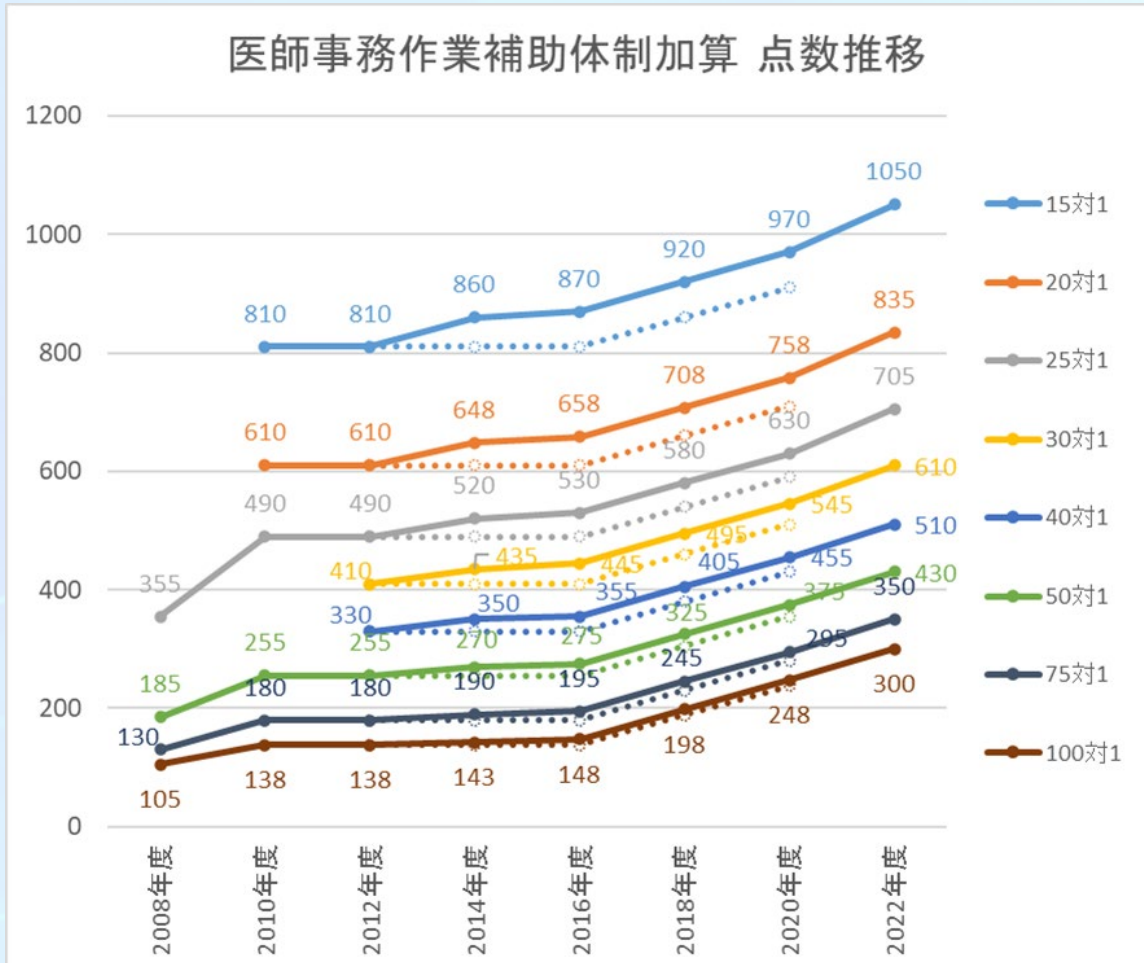
医師事務作業補助体制加算も同様である。これまでは、いかに手厚い配置を目指すかが問われていた。働き方改革の推進、医師の負担軽減に、医師事務作業補助者の活躍が効果的だったことを反映している。

今回の改定でも点数は引き上げられたものの（グラフ4）、経験年数が問われるようになった。つまり、医師事務作業補助者の「質」が問われることになる（直接的に質を表す指標があればよいが、それは非現実的なので「経験年数」で代替していると理解している）。

今回の改定で、このような「病床を増やせ」「人員を増やせ」から、「使い方」「質」が問われる方針の転換点が到来したと言える。このような転換点を前にし、病院でのさまざまな取り組みが今までと同じで良いわけがない。今回の改定は、地域・自院でどのような取り組みが必要となるか考える好機と言えよう。

以上

◆グラフ4 医師事務作業補助体制加算の点数推移（実線：加算1 点線：加算2）



診療報酬点数表などを基に作成



執筆者 渡辺 優 氏

<主な所属組織と肩書き>

株式会社メディチュア 代表取締役
野村ヘルスケア・サポート&アドバイザー株式会社 シニアコンサルタント
株式会社MMオフィス コンサルタント
株式会社ウォームハーツ 顧問
株式会社医用工学研究所 アドバイザリーシニアコンサルタント 等

<現在の主な活動>

医療データ分析（各種統計データ、院内データ等）
コンサルティング、業務支援、大学非常勤講師執筆、寄稿等